

大阪医科大学学報

第87号 平成23年2月
(インターネット版)



侘助

◆目

募金のお願い	2
叙勲について	3
受賞等について	4
中山国際医学医療交流センター	6
日本糖尿病眼学会	14
病院看護部	15
市民公開講座	16
学内行事	18
看護専門学校	20
卒後臨床研修センター	21

◆次

寄付金報告	22
主要会議報告	23
行事日程	28
キャリア形成支援センター・医療安全対策室	29
感染対策室	31
大学安全対策室	32
保健管理室からのお知らせ	35
歴史資料館・俳句	37
LDセンター	38

募金のお願い

大阪医科大学附属病院の整備事業 募金のお願い



大阪医科大学は、昭和2年（1927年）に日本最初の5年制医学専門学校「大阪高等医学専門学校」として設立され、お陰をもちまして本年度創立84周年を迎えます。本学は「国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成する」という建学の精神に則り、多くの医療人を社会に送り続けてきました。

本学附属病院は、昭和5年5月に、大阪高等医学専門学校（大阪医科大学の前身）附属の三島病院として開設されました。現在、本院は全

29診療科と4つの診療にかかわるセンター、許可病床数935床を有する高度医療施設となり、「特定機能病院」の承認を受けるとともに「病院機能評価認定病院」「地域がん診療連携拠点病院」「肝疾患診療連携拠点病院」「大阪府地域周産期母子医療センター」「災害拠点病院」に認定され、高槻市を中心とする地域の中核病院として、皆様に安心して受けていただける質の高い医療を提供する特定機能病院として日々努めております。

これからも本学の伝統に立って、附属病院は「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに良識ある人間性豊かな医療人を育成する」という理念の下、本院で治療を受けられたことを心から喜んでいただけるよう新たな挑戦と前進をしまいたいと考えております。

現在、附属病院は質の高い医学研究者と医療従事者の養成が求められるだけでなく、難治性疾患の治療法の開発をはじめ先進医療に値する医術の向上を図るために医療機器の導入やその応用・開発が求められております。

新しい医学・医療のあり方を思索し、これからの要請に応えるためには、研究施設の拡張や最新機器の整備が必須とされ、多額の資金が必要となります。

しかし、長引く世界的不況や超少子・高齢社会の到来などによる社会情勢の影響、加えて保険医療費や国からの補助金は毎年削減の一途を辿っており、皆様方にご支援を仰ぎ、高度先進医療を推進して参りたいと考えております。

厳しい経済情勢の中、このようなお願いを申し上げますことは大変心苦しい限りですが、高い公共性を有するが故に課された本学の社会的使命をご理解いただき、ぜひとも温かいご支援を賜りますよう伏してお願い申し上げます。

平成23年1月

学校法人大阪医科大学 理事長 植木 實
大阪医科大学 学長 竹中 洋

●募集要項

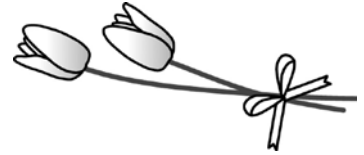
1. 募金の名称：大阪医科大学附属病院の整備事業募金のお願い
2. 募金の目標額：5億円
3. 寄付金額：個人1口1万円、法人1口10万円としておりますが、できるだけ複数口のご協力をお願いします。ただし、1口未満のご寄付もありがたくお受けします。
4. 募金期間：平成23年1月1日～平成27年12月31日
5. 申込方法：募金推進本部にご連絡いただければ、「申込書」を郵送させていただきます。

<お問合せ先>

募金推進本部

T E L : 072-684-7243 (直通) F A X : 072-681-3723

E-mail : kikin@art.osaka-med.ac.jp



叙勲について

平成22年「秋の叙勲」で、永年の教育研究の功勞に対し、太田富雄名誉教授（脳神経外科学）が瑞宝中綬章、美濃眞名誉教授（小児科学）が瑞宝小綬章を受章されました。



太田 富雄 名誉教授

京都大学医学部卒業
大阪市立大学助教授
京都大学医学部助教授
大阪医科大学教授（脳神経外科）
現在、大阪医科大学名誉教授
本学退職後は、医療法人寿会・富永病院院長、財団法人
大阪脳神経外科病院脳ドックセンター長、同病院名誉院長
を務める。



美濃 眞 名誉教授

大阪大学医学部卒業
大阪市立大学助教授
大阪市立大学医学部附属病院小児科副部長
大阪労災病院小児科部長
大阪医科大学教授（小児科学）
現在、大阪医科大学名誉教授
在職中に、大阪医科大学附属病院長、学校法人大阪医科
大学理事を務める。
退職後は、学校法人大阪医科大学顧問、医療法人清恵会
副理事長、清恵会病院院長、同病院名誉院長を務める。

受賞等について

受賞等について

米国泌尿器科学会（AUA）と武田薬品工業より感謝状授与
泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 勝岡洋治 教授

平成22年12月、米国泌尿器科学会（AUA）と武田薬品工業より、AUA News Japanese Editionの発行責任者と監修者としての功績に対して感謝状が贈られました。本誌は世界の泌尿器科学の進歩と発展をリードするAUAの動向に注目できる情報誌として、全国の泌尿器科医から大変好評を博しています。創刊後3年を経て、現在までに70,000部以上を発行しています。そうした情報活動を通して日米両泌尿器科学会の相互交流促進に貢献した点が高く評価されたためです。



14th International Congress on Neutron Capture Therapy
Fairchild award

外科学講座 脳神経外科学教室 平松 亮 先生（大学院）

2010年10月25～29日に、アルゼンチン・ブエノスアイレスで開催されました14th International Congress on Neutron Capture Therapyにおいて、Fairchild awardを受賞されました。

演 題：『New imaging assessment of glioblastoma patients treated by boron neutron capture therapy : functional Diffusion Map』



卒後臨床研修センター平松ゆり先生（奥様）と



平成22年度科学研究費補助金審査委員表彰
生命科学講座 生理学教室 窪田隆裕 教授

独立行政法人日本学術振興会より、学術研究の進进行を目的とした科学研究費補助金の第一段審査において模範となる審査意見を付し、公平・公正な審査とその質を高めることに貢献され、約5,000名の第一段審査委員より39名の委員が選考・表彰されました。



※日本学術振興会

http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/hyousyou_2010.html

日本生化学会 JB論文賞受賞 生命科学講座 生化学教室 生城浩子 講師

日本生化学会の英文誌「Journal of Biochemistry」で発表された論文が2010年度のJB論文賞を受賞され、平成22年12月7日より10日まで、神戸ポートアイランドで開催された第83回日本生化学会にて受賞論文のポスター掲示が行なわれました。

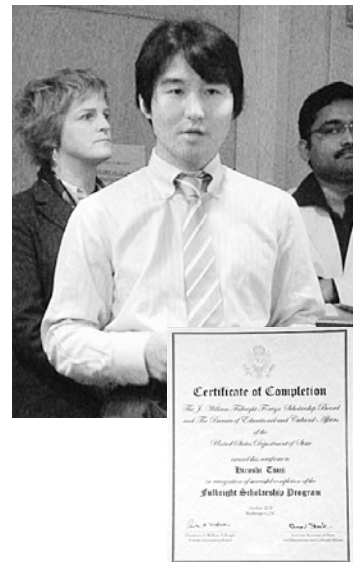
論文名：『Structural Insights into the Enzymatic Mechanism of Serine Palmitoyltransferase from *Sphingobacterium multivorum*』



日米教育委員会よりフルブライト奨学生に選出、修了証書授与 衛生学・公衆衛生学教室 辻 洋志 先生（大学院）

日米両国政府によって設立された日米教育委員会よりフルブライト奨学生に選出され、2009年8月より約1年間ハーバード公衆衛生大学院（専門職修士課程：産業環境衛生学）に留学。同院卒業と同時に米国政府より修了証書が授与されました。

フルブライトプログラムは、日米教育交流計画のもと米国国務省教育文化局および日本文部科学省により共同出資され、奨学生が独自の専門分野の研究を行うための学費、生活費、渡航費等全額支給を行うと共に、日米の相互理解に貢献できるリーダーを養成することを目的としており、本学からは過去に藤本 守名誉教授（第二生理学）、武内 敦郎名誉教授（胸部外科）等が選出されております。
※日米教育委員会フルブライトプログラム <http://www.fulbright.jp>

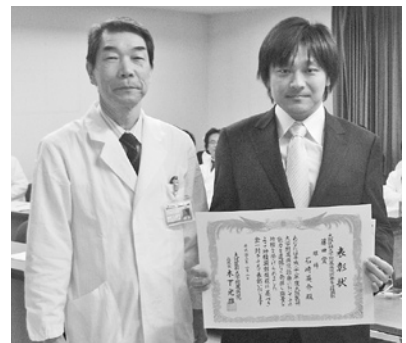


平成22年度 大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰

平成22年度の藤田賞の授賞が、眼科学教室・石崎英介助教に決定し、授賞式が平成23年2月2日（水）の診療科長会にて行われました。

科長会にご出席の方々からの祝福の中、石崎先生に表彰状と金一封が授与されました。

平成23年度の顕彰は、本年秋頃に募集を予定しております。



■海外派遣学生報告会の開催について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環として、医学部学生・教員の海外研修を積極的に行っていますが、平成22年春から夏にかけて交流協定に基づき下記の各大学に本学学生を派遣しました。その報告会が平成22年9月30日午後5時30分より別館（歴史資料館）大学院多目的講義室において開催されました。

❖タイマヒドン大学シリラート病院臨床実習

研修期間：平成22年3月29日～4月9日

派遣学生：6年生 福本真延君、川西彩加さん、前橋伸子さん

❖米国ハワイ大学クアキニ病院臨床実習

研修期間：平成22年6月1日～6月25日

派遣学生：6年生 松浦広昂君

❖米国ウイスコンシン大学医学部Greene教授主催ワークショップと臨床実習

研修期間：平成22年7月18日～8月8日

派遣学生：4年生 西田浩孝君、5年生 宮高泰匡君

❖ロシア・アムール医科アカデミー病院実習

研修期間：平成22年7月22日～8月9日

派遣学生：5年生 浜畑好昌君、大矢希君、井上亮君、酒井美恵さん

引率教員：歯科口腔外科 木村吉宏助教

❖中国医科大学臨床実習

研修期間：平成22年7月26日～8月6日

派遣学生：5年生 中野和俊君、古曾部和彦君

❖米国ハワイ大学PBLワークショップ

研修期間：平成22年8月15日～8月20日

派遣学生：3年生 高木麻衣さん、城玲央奈さん、本田武史君

4年生 三輪晶子さん

5年生 高田卓磨君、浜畑好昌君



報告会は竹中中学長をはじめ多くの教員、学生の参加を得て、それぞれの大学で学んだことや、感じたこと、また滞在中に体験したことなどが生き生きと語られ、限られた時間ではありましたが大変実りの多い会になりました。



■タイチェンマイ児童精神科医の本学訪問について

看護学部 教授 元村 直靖

Samai Sirithongthaworn 先生は、児童精神科医であり、タイ王国チェンマイにあるタイ厚生省子ども発達センター (Rajanagarindra Institute of Child Development) の所長であり、発達障害の子供に対して様々な取り組みをされています。昨年10月13日に本学を訪問され、タイ王国の発達障害の現状について講演していただき、中山国際医学医療交流センターにおいてVisiting Professorのディプロマの授与が行われました。



左から 河野教授、Dr. Samai Sirithongthaworn、元村教授

■韓国ソウル大学小児科医の本学来訪について

中山国際医学医療交流センター運営委員 玉井 浩



左から河野教授、金副教授、玉井教授

金漢錫先生は現在、韓国ソウル大学医学部小児科副教授であり、小児病院の新生児集中治療室室長を兼務されていますが、元々本学を1990年に卒業し、本学小児科学教室に入局された先生です。1998年から東京大学大学院薬学部に6か月間、米国 Georgetown 大学、Pennsylvania 大学に3年間留学された後、2年間本学附属病院周産期センターに勤務されました。2004年から現職となっております。

この度は、文部科学省の周産期医療環境整備事業により昨年11月4日に招聘し講演をしていただきました。さらに、中山国際医学医療交流センターにおきましてVisiting Professorの称号を授与されました。

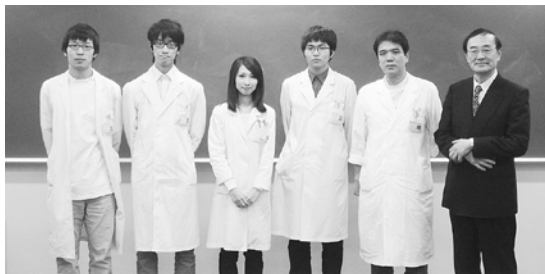
■アムール医科アカデミーでのカンファレンスへの参加について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

毎年恒例となっているアムール医科アカデミー学生科学カンファレンス（第20回）に、今年度も本学よりビデオ参加しました。

今回は平成22年7月にアムール医科アカデミーで病院研修を行った、5年生の酒井美恵さん、浜畑好昌君、大矢希君、井上亮君、引率教員の木村吉宏先生が参加されました。

中山国際医学医療交流センター



左から 井上さん、浜畑さん、酒井さん、大矢さん、木村助教、河野教授

酒井さんは「The Festival of Kyoto」、井上君は「Samurai and Ninja」、大矢君は「The Difference of Transportation between Japan and Russia」、浜畑君は「Japanese Food Culture」のタイトルで発表しました。それぞれの発表は内容も素晴らしく、ロシアの学生達に大変好評であったとのメールがカンファレンスの写真とともに送られてきました。

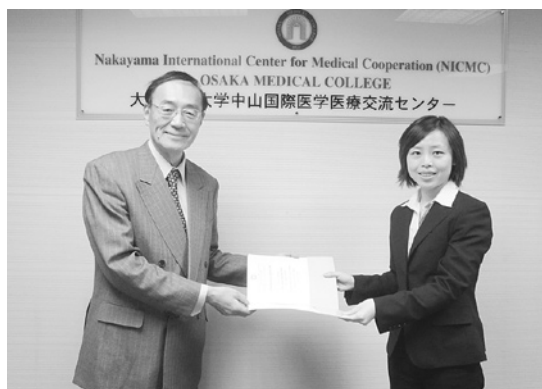
多忙の中参加ご協力いただいた学生諸君、木村先生にあらためて感謝申し上げます。

■中国医科大学出身医師の本学見学について

本学と交流協定を結んでいる中国医科大学の出身で、この度日本の医師免許を取得し現在済生会茨木病院で研修中の王麗楊さんが、平成22年12月16日に本学を見学されました。

これまでの見学と同様、本学図書館、講義実習棟、歴史資料館などの案内を行いました。途中随所で施設の充実ぶりや学生への誠意ある対応に感嘆されるとともに、日中の医学教育や医療制度の違いについて多くの質問をされていました。

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



右が王麗楊さん

■韓国ソウル大学からの来訪について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



平成23年1月10日にソウル国立大学のチェ・ミンホ学生担当副学部長に引率されて、教授、学生合わせて57名が来訪されました。竹中学長をはじめとする教員と学生がこの一団を迎え、両大学間で積極的な交流が行われました。歓迎式では竹中学長および4年生楠田梨沙さんによる歓迎のスピーチ、ソウル国立大学のチェ・ミンホ学生担当副学部長と学生のホ・ヨンホ君による答礼スピーチ、米田教授と宮本准教授による卒前・卒後教育についてのプレゼンテーション、本学の卒業生であるソウル国立大学の金漢錫副教授による学校紹介が行われました。交流会では2年生の井塚正一郎君がドビュッシーの「アラベスク」を演奏。両学生の素晴らしいピアノ演奏に、会場にいた全員の心が一つになり、学生同士の貴重な交流の場となりました。

帰国された国立ソウル大学の金漢錫副教授より、完璧に準備された素晴らしい見学プログラムと充実した設備及び教育プログラムに、一同深い感銘を受けたというお礼状をいただきました。

休日にも関わらずご出席いただきました竹中学長をはじめ本学教員各位、国際交流部の根来孝義君（5年生）を中心に一丸となってこの交流会を盛り上げていただいた学生の皆さんに改めてお礼を申し上げます。



消化器内視鏡シミュレーターの実演

■タイ・マヒドン大学、中国医科大学およびオーストラリア国立大学学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



学長室にて

平成23年1月17日から1月28日までタイ王立マヒドン大学医学部シリラート病院の学生3名（第5学年のJaturong Therdphaothaiさん、同Natee Viravanさん、同Supatjaree Chanvitanさん）、中国医科大学の学生2名（第5学年のYang Yangさん、同Nan Liuさん）がそれぞれ相互交流協定に基づいて、また海外選択臨床実習の一環としてオーストラリア国立大学大学院の3年生修了Meredith Ann Highfieldさんが本学附属病院、三島救命救急センターおよび北摂総合病院などで研

修を受けました。

学生たちはオリエンテーション・学内見学ののち、予めリクエストのあった診療科に本学5年生のクリクラのカリキュラムにあわせて配属されました。

学生はそれぞれの希望に沿って第1、第2、第3内科、小児科、神経精神科、救急医学、脳神経外科、整形外科、胸部外科、麻酔科、産婦人科、リハビリテーション科および一般・消化器外科などで研修を受けました。



内科外来にて（花房教授と）

中山国際医学医療交流センター



中山太郎先生と

学生達は研修期間中に国際シンポジウムへの参加、また本学学生との様々な交流を行うなど、充実した2週間を過ごしました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた竹中学長・木下病院長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院の木野院長、三島救命救急センターの秋元所長およびスタッフの皆様、また終始エスコートしていただいた国際交流部を中心とした学生諸君に対しあらためて御礼申し上げます。



剣道部見学



華道部にて生け花のお稽古



■第11回国際交流シンポジウムを開催して

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一



中山国際医学医療交流センター主催で、本年1月28日に第11回国際交流シンポジウムを行いました。

今回のシンポジウムは「各国の医学教育・スクールライフ・文化を学ぼう」をメインテーマに、カナダ、アメリカ、韓国、中国、オーストラリア、タイ、日本の7カ国の医学生への参加を得て開催されました。中国から

は本学との交流協定に基づいて瀋陽にある中国医科大学のYang YangさんとNan Liuさん、またオーストラリアからは、海外選択臨床実習を本学で行っているオーストラリア国立大学医学部のMeredith Ann Highfieldさん、タイからは本学との交流協定を結び相互交流を行っているマヒドン大学医学部シリラート病院のJaturong Therdphaothaiさん、Natee Viravanさん、Supatjaree Chanvitanさん、本学からは3年生の城玲央奈さん、5年生の根来孝義さんの2名が発表しました。またカナダからマクマスター大学のSeung Mi Yooさん、アメリカからはハワイ大学のNathan Itogaさん、Michael Yimさん、韓国からは韓国カソリック大学のJoonHo Yangさん、JungMee Parkさん、KyungYoon Yangさん、JiYoung Yoonさんによるビデオ参加がありました。

シンポジウムは、交流センター運営委員である米田博教授の座長進行により行われ、発表内容は、各



中国医科大学の学生

国の医学教育のシステムや、医師免許取得に至る仕組み、さらにスポーツクラブや文化活動などの学生生活等、お国柄の違いも反映された素晴らしいものばかりで予定時間の2時間があったという間に過ぎました。特に質疑応答ではコメンテーターとして参加していただいた本学教育センターの宮本学准教授、フロアの学生諸君による活発な討論は、引き続いて開催された本学食堂での意見交換会にまでおよび、学部学生や大学院生による国際交流を育むとともに英会話能力やコミュニケーションスキルの向上に資するというシンポジウムのもう一つの目的は十二分に達成されたことを実感しました。

この国際シンポジウムは年々参加国も増加し、発表内容も多彩でそれぞれ創意工夫がみられ、大変有意義であったとともに、ご助言ご助力をいただいた教職員各位、学生諸君に誌上をお借りして感謝申し上げます。

以下に本学代表の2名の学生のうち、城さんの感想をご紹介します。



■第11回国際交流シンポジウムに参加して

3年生 城 玲央奈

今回、国際交流シンポジウムに大阪医科大学からの発表者として参加させていただきました。日本の医学教育について英語で発表するというので、準備段階では膨大な情報量からどれを選べばよいのか、どうすればわかりやすく伝えられるのかと、慣れない作業の中で何度も推敲を重ねました。ついに発表当日を迎え、同じく発表者として参加していた留学生たちの発表はどれも興味深く、彼らの工夫を凝らした発表方法と完成度の高い内容に感心するばかりでした。発表が進むにつれ、大阪医科大学の発表者というプレッシャーが増し、たいへん緊張しましたが、留学生たちが優しく励ましてくれたおかげで冷静に発表を終えることができました。



時間の関係で直前に発表内容を減らしたため発表の出来に不安はありましたが、その後のパーティーで参加者の方々からわかりやすかったよ、と声をかけていただき、また留学生たちが日本語でお疲れ様と話しかけてくれ、一気に充実感であふれました。

今回の発表や留学生との交流を通じて、大阪医科大学は国際交流シンポジウムをはじめ、国際交流部や数々の留学プログラムなど、医療のグローバル化を見据えた環境が整っており、学生はたいへん恵まれていると感じました。

今回このような素晴らしい機会を与えてくださった、中山国際医学医療交流センターの皆様、ならびに関係各位の皆様にご心より感謝いたします。

■中山国際医学医療交流センター 留学支援制度成果報告

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では毎年多数の若手研究者が海外留学し、また海外からも留学生を受け入れています。センターでは、これら研究者の海外留学や本学受け入れをサポートする目的で、留学支援制度を設けています。これまで多くの若手研究者がこの制度により渡航費の一部支援を受けています。

今回一般・消化器外科の河合英先生が、フランスから研究留学を終えて帰国されました。以下にその成果報告を紹介します。

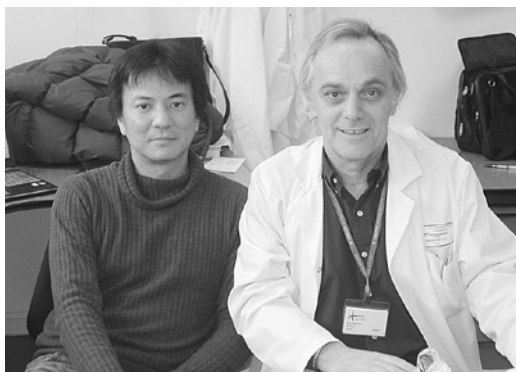


■IRCAD-Strasbourgでの留学経験

一般・消化器外科学教室 助教(准) 河合 英

2009年3月から2010年3月まで大阪医科大学一般・消化器外科学教室からフランスに研究留学させていただきました。場所はストラズブールのIRCADという施設で、主任教授のProf. Jacques Marescauxはサルコジ大統領からフランス医学教育の見直し・再構築に対するプロジェクトのトップに任命されている世界的に有名な外科医です。2009年2月下旬に訪仏し前任者と入れ替わりで住まいは確保できたのですが、銀行口座の開設・電気や電話の契約・IDカードの取得等、生活の立ち上げから私のフランス生活が始まりました。この生活の立ち上げで最初に実感したことは、日本ってなんて便利な国だろう…ということでした。言葉の不自由なことはもちろんですが、契約方式が日本と異なるため非常に大変でした。なんとか生活の立ち上げを終え研究を開始することが可能となった時には約1カ月が過ぎていました。

IRCADでは世界最先端の外科手術が研究されており、minimally invasive surgeryの発展に貢献しています。数年前から全く体表面に傷を残さない手術方法であるNOTES (Natural Orifice Trans-luminal Endoscopic Surgery) という技術が確立され、この1年間では臨床でも導入されるようになっていました。またNOTESより現実的な方法として臍部に1つだけトロッカー (3-4個の器械の挿入できる特殊なトロッカー) を挿入し手術を行うsingle port surgeryも盛んに行われています。これは臍部がひとつ



直属の上司であるDr. DallemagneとIRCADで



NOTES教育コースのビデオ講義でのひとこま
Dr. Allemanと



NOTES教育コースのビデオ講義でのひとこま
Prof. Marescaux、Dr. Allemanらと

のNatural Orificeであるとの考えによるscarless手術の1つであるとされています。さらに日本で施行されている施設はそれほど多くはないのですが、da VinciなどのRobotic Surgeryも行われています。古いものを大事にするヨーロッパですがこういう新しい技術を開発する能力・情熱は日本人からみれば驚くべきもの・見習うべきものだと思います。実際フランス人やスイス人の同僚と新しい治療方法の開発研究をしていると、多くの斬新な意見やアイデアが彼らから提案されます。またアイデアが実現不可能なことやくだらないものでも、馬鹿にせず時間をかけて議論されていきます。こういう良い環境の中での私の実験は、今まで開腹や腹腔鏡で行われていた手術治療を内視鏡を使い内側からアプローチして治療をするというものでした（少しNOTESとは異なりますが・・）。同僚や上司の協力のもと豚のモデルを使いすばらしい成果を得る事ができました。現在論文を執筆中で近日中に投稿を予定しています。また世界各国から多数fellowとして研究や臨床目的でIRCADに来ており、私の滞在した一年間でもスイス人・イタリア人・中国人・台湾人・インド人・スペイン人等と一緒に楽しく過ごすことが出来ました。



仕事以外の生活も非常に充実していました。ストラスブールはドイツとの国境の町で約10分でドイツ国境があり、もちろんかの有名なアルザスワインの産地です。アルザスワインはドイツワインとは違い、ぶどうの種類にもよりますがすっきりとした味わいのワインです。また秋にはブドウの収穫祭がアルザスの小さな町々で開催され町中がワイン一色になります。IRCADで一緒に研究した同僚たちとワインを飲んで長い時間議論をしていたことが思い返されます。研究生活および私生活ともに刺激を受けることができ、このような素晴らしい機会をサポートしていただきました中山国際医学医療交流センターに、この場をお借りし御礼申し上げます。

■スコットランド医学部長会議医学教育グループのプロジェクトコーディネーター Phillip Evans 先生の招聘講演について

教育センター 宮本 学



教育センターのレクチャーシリーズ15として、岐阜大学に来日されている Phillip Evans先生をお招きして講演をお願いしました。

Phillip Evans先生は、医学教育で有名なスコットランドにおける高名な医学教育専門家です。現在は、Glasgow 大学医学部で Director of the Centre for Educational Scholarship および Scottish Deans' Medical Education Group Projectのコーディネータをされ、世界の医学教育をリードされています。

花房俊昭教授による本学附属病院の案内、河野公一教授による学内案内のあと、中山国際医学医療交

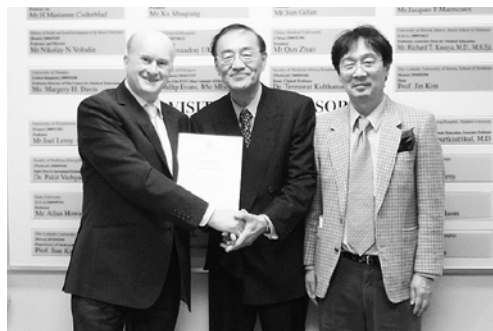
流センターにおいてHonorary Professorの称号が授与されました。

講演は、平成22年12月27日午後4時30分から6時20分まで講義実習棟第1講義室において“Mini-Cex and Portfolios. Developing Staff to assess students: The Glasgow Way”の題名で、教育センター、卒後臨床研修センター、中山国際医学医療交流センターの共催で行われました。

米田 博教授の司会のもとで、本学出身で現在東北大学医学教育センター長である金塚 完教授や和歌山県立医科大学教育研究開発センター長である羽野卓三教授、千葉大学大学院医学研究院医学教育研究室 前田 崇先生といった学外から3名の医学教育専門家、そして本学からは22名の参加がありました。

英国の卒後教育はe-portfolioの作成が義務化され、卒前教育においてもポートフォリオを用いた良医を育てるための教育がなされています。一方、わが国ではいまだ医師国家試験を目的とした教育が行われている場合やクリニカルクラークシップが十分になされていない大学もあります。

今回の講演では、実際にポートフォリオが英国でどのように進められているのかについて詳しく知ることができました。質疑応答も活発になされ参加者の医学教育への情熱を感じることができました。



Phillip Evans教授へHonorary Professorの称号授与

■第16回日本糖尿病眼学会総会を主催して

眼科学教室 助教 石崎 英介

2010年11月26日から28日の期間に、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）において、当教室の池田恒彦教授が会長となり、第16回日本糖尿病眼学会総会を主催いたしました。池田教授就任以来、教室が主催する学会は4つ目になります。今回は、香川大学の白神史雄教授が会長となって主催された第49回日本網膜硝子体学会総会との合同学会として、網膜2010（RETINA2010）という呼称で開催いたしました。合同開催ではありましたが、交通の便が良いこともあり、香川大学のご厚意で大阪での開催といたしました。学会期間中は、幸い3日間とも好天に恵まれ、爽やかな秋晴れの中、1,700名近いご参加をいただくことができました。

今回の学会主催に際して、多大なご支援を賜りました仁泉会、大阪府眼科医会、大阪医大眼科同窓会の諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、学会運営の裏方として尽力してもらった教室員に心より感謝いたします。



学会運営スタッフで記念撮影



池田会長の開会挨拶

■小児病棟のクリスマス

小児病棟に男性保育士が異動になり頑張っています！

65病棟 保育士 加納 淳生



小児病棟保育士の加納です。12年間お世話になった院内保育室から、昨年5月10日より病棟保育士として65病棟へ異動になりました。小児病棟である65病棟は、個室11室、大部屋7室で全37床を有し、新生児～中学校卒業迄の子ども達を30名の看護師と事務員、補助婦が医師としっかり連携を図り日々の看護に当たっています。

初めて現場に触れた時、全てのスタッフが溢れんばかりの熱意と愛情を持って子ども達と接していることが肌で感じられました。異動という不安もありましたが、一保育士として子ども達がこんなにも愛されていることを嬉しく思い、そのスタッフの一員になれることに期待を膨らませたものでした。

チーム医療の中で求められる病棟保育士の役割は、保育園と比べて多少の違いがあります。子供たちは慣れない入院生活を送り、どうしても不安が先行してしまいます。それに対して少しでも楽しく、笑顔になれるよう、治療や検査に対するストレスが緩和されるための支援や、社会復帰した際にスムーズに普段の生活に戻れることを心掛けて日々の保育に取り組んでいます。保護者の方々とも、看護師とは違う立場で思いを共有し、そのことをチームで話し合うことで患児やご家族の入院生活の助けとなり、安心していただける存在であること等が病棟保育士に求められる役割であると考え、日々保育に取り組んでいます。

また、65病棟には、入院中の学童期の子供たちの学びの場として院内学級が開校しています。院内学級ではひとりひとりに合った授業や遊びが実施されています。院内学級の教員と連携を図り、学習の援助を行うことも病棟保育士の大切な役割の一つです。医師・看護師・保育士・教員、これらの専門職・専門領域が一体となって、入院患児に対する包括的な援助を行っていくことによって、初めて高度な専門性の高い医療保育を実践していくことが可能になると考えます。本院の小児病棟はそれが実践できる場です。医療チームの一員としてスタッフとの連携を図り病棟での保育を実践していきたいと思えます。



その一環として、去る12月15日、病棟でクリスマス会を行いました。11月下旬から、入院している子ども達と一緒に楽しみながら準備を進め、ワクワクしながら迎えた会当日。楽しい出し物やゲームを行い、研修医の先生扮するサンタさんからプレゼントをもらって記念撮影。子ども達の満足そうな笑顔を見て、スタッフ一同大満足の日となり、思い出に残る会となりました。



65病棟では、クリスマス会だけでなく、七夕会・夏祭り・運動会…といったお楽しみ会を月に一回行っています。その企画・運営も病棟保育士の役割です。入院している子ども達が、会を通して四季を感じ、和やかな雰囲気の中楽しい時間を皆で共有出来るように計画していきたいと考えています。

これからも病棟保育士として、いつも子ども達と笑い合い、病棟全体に活気を与えられる存在として頑張りたいと思えます。

平成22年度 市民公開講座

■第5回

平成22年11月6日（土）14時～ 臨床第一講堂
『他人に言えない悩み～頻尿と性器脱～』
産婦人科 講師（准） 田辺 晃子

『頻尿の治療薬』
附属病院薬剤部 平 祥子

『頻尿時の留意事項』
附属病院 婦人科病棟 看護師長 金江 由香



■第6回

平成22年12月18日（土）14時～ 臨床第一講堂
『ウイルス肝炎と肝がんを克服する為に』
内科学Ⅱ 講師 福田 彰

『ウイルス肝炎に対する各種治療薬について』
附属病院薬剤部 牧 智恵子

『インターフェロン治療中の日常生活』
附属病院 消化器内科病棟 看護師 末光 茜



■第7回

平成23年1月15日（土）14時～ 臨床第一講堂
『慢性肝臓病（CKD）を知らう』
血液浄化センター センター長 井上 徹

『お薬と腎臓の話し』
附属病院薬剤部 牧野 順子

『腎臓病の食事と日常生活』
附属病院 糖尿病センター 看護師長 澤井美奈子



平成23年度 高槻市大学交流センター事業『市民講座』開催予定

開催場所：高槻市総合市民交流センター7階・第6会議室

開催日時	所 属	講 演 者
10月13日（木）16：30～	未定	未定
10月20日（木）16：30～	未定	未定
10月27日（木）16：30～	未定	未定

■市内5大学リレー市民講座

～ 地域と大学が連携したまちづくり ～

日 時：22年12月11日（土）12：30～17：00

場 所：高槻市立総合市民交流センター 8階イベントホール

大学名	講師・講演テーマ
関西大学	社会安全学部 准教授 菅 磨志保 氏 『減災を組み込んだまちづくりに向けて』
大阪薬科大学	薬品分析化学研究室 教授 三野 芳紀 氏 『環境浄化と健やかなまちづくり』
大阪医科大学	解剖学教室 教授 広報・入試センター長 大槻 勝紀 氏 『高槻市民とともに80余年 -大阪医科大学の広報活動について-』
京都大学	大学院農学研究科附属農場 教授 北島 宣 氏 『研究農場から食卓へ』
平安女学院大学	学長 山岡 景一郎 『人間は何歳まで生きられるのか？ -古墳時代から現代までを考察する-』



※ <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/kurasu/db4-daigaku.html>

平成23年度 市民公開講座 開催予定

回数	開催日	演 題	担当部署	薬剤部 演題	講演薬剤師
				看護部 演題	講演看護師
第1回	平成23年 4月16日(土)	花粉症とうまく付き合う	耳鼻咽喉科 講師 寺田哲也	花粉症のお薬との上手な付き合い方	三浦 悠
				花粉症の方の日常生活におけるセルフケア	福 末子
第2回	5月21日(土)	循環器の治療 -最近の考え方-	第3内科 教授 石坂信和	降圧薬はどのようにして血圧を下げるのか?	高橋智恵子
				循環器疾患における日常でのセルフケア	東 典子
第3回	6月18日(土)	消化管がんに対する内視鏡治療	消化器内視鏡センター 准教授 梅垣英次	ヘリコバクターピロリのお薬について	小笠原明美
				内視鏡治療前後の食事と日常生活	澤田亜利香
第4回	9月17日(土)	消化器がん化学療法の進歩	化学療法センター 講師 後藤昌弘	抗がん剤治療のつらさを抑えるお薬について	細見 誠
				抗がん剤治療を安心して受けるために	有田由美
第5回	11月19日(土)	“肺がんなんてこわくない” 肺がんの治療について	胸部外科 講師 花岡伸治	分子標的薬って何?	浦嶋和也
				肺がん手術後に日常生活で気をつけたいこと	上田育子
第6回	12月17日(土)	前立腺がんの放射線治療	放射線医学 教授 猪俣泰典	前立腺がんの痛みを抑えるお薬との付き合い方	後藤愛実
				前立腺がんと日常生活	長驛美奈子
第7回	平成24年 1月21日(土)	遺伝のはなし -遺伝子検査でどこまでわかる?-	臨床検査医学 講師 宮崎彩子	お薬の効く人と効かない人の違い	山崎浩平

平成22年度 大阪医科大学附属病院連携病院長会総会



平成22年11月18日（木） 15：00～16：45
ホテルグランヴィア大阪 20階 「名庭」の間

『診療報酬改定と最近の指導・監査の動向』

－中央情勢を含めて－

社団法人 大阪府医師会

副会長 茂松 茂人 先生

本年度の特別講演は大阪府医師会・副会長の茂松茂人先生にお願いし、連携病院より79名、院内より34名、合計113名の先生方にご参加を頂いて開催いたしました。

演者の茂松先生は大阪府医師会の理事を平成13年から務められ、平成22年4月より医師会副会長の要職に就かれました。また、本学の卒業生として常に温かく見守っていただいております。この度の厚生労働省・近畿厚生局・大阪府医師会による「特定共同指導」の際には、立会者として大阪府医師会を代表して講評を頂戴しました。

講演では平成22年度診療報酬改定の内容を詳細に説明されるとともに、改定に至るまでの中央官庁内の動向や、各種学会やその他の機関とのやり取りを、裏話を含めたエピソードを交えながらお話しされました。また前記の「特定共同指導」にも触れられ、7年前の時とは雲泥の差であると話され、その事は竹中学長以下のご尽力が大きかったとも付け加えられました。本総会は院外の参加者の先生方の殆どが病院長もしくは経営トップという立場であり、非常に興味深く聴かれていました。引き続き開催された懇親会の席は、さながら同窓会の雰囲気です。参加された先生方も非常に満足された様子でした。

平成22年度 防災訓練実施

平成22年12月8日（水）に、高槻周辺で震度6の地震発生を想定した防災訓練を実施しました。

24病棟を中心に避難病棟とし、災害対策本部立上げから、通報連絡、避難誘導、救出活動の各訓練を行いました。約80名の多職種の職員が参加し、各自の担当業務について一人一人が役割を再認識することが出来ました。



健康科学クリニック主催 「市民講演会」



健康科学クリニック主催の市民講演会が次のとおり開催され、117名の方々の参加がありました。

日 時：平成22年12月4日（土）14：00～
場 所：附属看護専門学校・看護学部 講堂
テーマ：「健康で安心の毎日を」
演 題：向坂 直哉 医師

「“メタボ”を正しく理解して健康的な生活を－認知症や寝たきりを予防しよう－」

堤 英雄 医師
「健康診断って必要ですか？
－がん検診を中心に－」



講演の合間には、インターミッションコンサートとしてご参加の皆様といっしょに合唱のひとつときを楽しみ、無料健康相談・保健指導も実施致しました。

平成23年 年賀交歓会



日 時：平成23年1月4日（火）13：00～
場 所：大学管理棟 第9会議室

理事長、学長、病院長出席のもと、元学長、名誉教授にもご出席賜り、100余名の教職員の参加のもと、恒例の年賀交歓会が開催されました。



平成22年度 実験動物慰霊祭



日 時：平成22年12月4日（土）13：00～
場 所：講義実習棟 第1講義室

実験動物センター長・朝日教授の祭文奉読に続き、医学医療に貢献した数多くの実験動物の御霊に謝意を表し、木下病院長をはじめとして、参列者全員が焼香を行いました。



クリスマスコンサート

平成22年12月20日（月）17：30～18：30

第5回クリスマスコンサートが学生自治会主催で開催されました。クリスマスコンサートは、地域との積極的関わりと学生のボランティア精神を高める目的で、看護学校学生と教職員が全員参加で行います。コンサートに先立って11月末日には玄関ホールに高さ3mのクリスマスツリーを飾り、北側の吹き抜けガラスにも可愛い飾りをつけ、エントランスホールにはイルミネーションを飾り点灯式を行いました。BGMにはクリスマスミュージックを流し、看護学校はクリスマス一色となりました。本番に向けて吹奏楽部やクラスごとの合唱、自治会のハンドベル、学生有志によるダンスなど、忙しい学習の合間に熱のこもった練習を重ね、当日を迎えました。



今年は、平日開催のため来校される方が少ないのではと心配をしておりましたが、地域の方々60余名の大人の方々と多くのお子さん達にご参加いただき、講堂は熱気でいっぱいになりました。学生の合唱やミュージカルの出し物に続いて学生手作りの心ばかりの小さなプレゼント…。ハンドベル演奏時には、会場からハミングが聞こえていました。最後はお子さんたちにステージに上がってもらって“アンパンマンマーチ”を吹奏楽の伴奏で大合唱！帰り際にはサンタとトナカイに扮した学生の大奮闘に、小さなお子さんたちからの握手と記念撮影となり、楽しい賑やかなひとときを持つことができました。

新校舎が完成して5年目の冬。平日開催にも関わらず多くの来校者を迎えることができ…、このことから、看護専門学校が地域に根ざした学校となりつつあることを実感できました。

ご参加いただいた方々、本当にありがとうございました。



日本赤十字社からの感謝状

学校法人大阪医科大学附属看護専門学校が、日本赤十字社大阪府支部より感謝状を頂きました。

本校では、白友祭（学校祭）開催時に献血車を受け入れて献血活動に協力をしています。これからも、社会への貢献として様々なことを考えていきたいと思えます。

有り難うございました。



関西医科大学との医学教育指導医ワークショップの開催について

平成22年9月25日（土）・26日（日）スペースアルファ神戸において、学外実習及び臨床研修における指導者の充実を目的として、本学と関西医科大学が共同で医学教育指導医ワークショップを開催しました。

これは文部科学省補助事業「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」の事業の一環として開催するFDであり今回が2回目の開催となります。高知医療再生機構の倉本秋理事長をディレクター、関門医療センターの林弘人副院長をチーフタスクフォースとして企画し、両校の学内外において医学教育に携わっておられる34名の先生方の参加を得て執り行われました。

ワークショップでは東京大学医学部附属病院総合研修センター長の北村聖先生のご講演や各医療機関における教育現場の事例紹介、各種情報交換を経て多くのコンテンツを作成するに至りました。今後の両校の医学教育のさらなる発展に寄与することが期待されます。

●運営組織（実施担当者）

主催責任者	竹中 洋	大阪医科大学	タスクフォース	近藤 敬一郎	大阪医科大学
〃	山下 敏夫	関西医科大学	〃	杉野 正一	大阪医科大学
チーフディレクター	倉本 秋	高知医療再生機構	〃	西本 泰久	大阪医科大学
チーフタスクフォース	林 弘人	関門医療センター	〃	田中 源重	大阪医科大学
コ・ディレクター	河野 公一	大阪医科大学	〃	寺崎 文生	大阪医科大学
〃	米田 博	大阪医科大学	〃	大村 直人	関西医科大学
〃	木下 利彦	関西医科大学	〃	北澤 康秀	関西医科大学
〃	福永 幹彦	関西医科大学	〃	河本 慶子	関西医科大学
コンサルタント	木下 光雄	大阪医科大学	〃	富野 敦稔	関西医科大学
〃	今村 洋二	関西医科大学	〃	宮崎 浩彰	関西医科大学
特別講師	北村 聖	東京大学	以上21名		

●参加者（34名）

吉岡 和彦	関西医科大学	福西 新弥	大阪医科大学
鈴木 克洋	近畿中央胸部疾患センター	大塚 宏治	高槻赤十字病院
後藤 功	大阪医科大学	福井 美保	大阪医科大学
北村 直行	泉大津市立病院	佐久良 肇	医誠会病院
中澤 和智	城山病院	永野 雄三	枚方市民病院
尾辻 剛	関西医科大学	永井 由巳	関西医科大学
洪 真紀	枚方市民病院	星本 真弘	清恵会病院
白石 友邦	石切生喜病院	小松 香	小松病院
湯浅 文雄	関西医科大学	岡田 雅	大阪医科大学
竹内 利寿	大阪医科大学	羽森 貫	大阪医科大学
西山 明秀	近畿中央胸部疾患センター	片山 博視	大阪府済生会吹田病院
山崎 文和	関西医科大学	山田 朗	大阪医科大学
林 敏雅	大阪医科大学	森口 哲也	医誠会病院
田中 一穂	大和中央病院	北野 元一	東大阪病院
伊藤 巧	清恵会病院	松井 康輔	関西医科大学
池田 耕士	関西医科大学	劉 長勳	北摂総合病院
多屋 光康	城山病院	和倉 大輔	大阪医科大学



このワークショップ参加者には両校及び厚生労働省から修了証書が授与されました。

寄付金報告

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年10月11日から平成22年11月30日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は200,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年11月30日までの寄付金入金件数は396件、金額は132,932,000円です。

(順不同・敬称略)

株式会社山武ビルシステムカンパニー関西支社 児島 隆介

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年6月21日から平成22年12月31日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は300,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年12月31日までの寄付金入金件数は37件、金額は13,500,000円です。

(敬称略)

松本 昊一

■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年10月11日から平成22年12月31日までの間の寄付金入金件数は1件、金額は50,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年12月31日までの間の寄付金入金件数は95件、金額は28,171,000円です。

(敬称略)

田中 克子

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年10月11日から平成23年1月4日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は4,100,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年1月4日までの寄付金入金件数は75件、金額は163,430,000円です。

(敬称略)

鈴木 康道 匿名2件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年10月11日から平成23年1月4日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は120,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年1月4日までの寄付金入金件数は22件、金額は3,433,460円です。

(敬称略)

福森 清子 匿名1件

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年10月11日から平成23年1月4日までの間の寄付金入金件数は40件、金額は11,230,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成23年1月4日までの間の寄付金入金件数は212件、金額は32,482,000円です。
(順不同・敬称略)

医療法人川村会くぼかわ病院 医療法人信愛会啜生会脳神経外科病院 医療法人祥佑会藤田胃腸科病院
 医療法人恵生会 株式会社スワトー 医療法人毅峰会吉田病院 医療法人社団洛和会洛和会音羽病院
 医療法人蒼生会蒼生病院 医療法人恒昭会 ユウキ産業株式会社
 植田 泰行 星山 俊潤 山口 春雷 長久 謹三 酒井 晃 植木 實 末沢 登
 玉井 和典 青山 文代 安井多喜雄 片山 外一 松本 順雄 高橋 嘉彦 原 隆
 西野 慎吾 加藤 佳典 大槻 哲彦 中田 英二 松本 延男 段 武夫
 林 泰三 河内 明 谷村 和治 高橋 宏明 堤 英雄 匿名3件

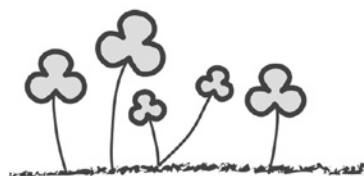
※これまで恒常的なご寄付はフレンズ会で承っていましたが、現在は「大阪医科大学基金」で承っております。大阪医科大学基金に温かいご理解とご支援を賜りますようお願い致します。

<寄付についてのお問い合わせ>

募金推進本部

TEL：072-684-7243（直通） FAX：072-681-3723

E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp



■ 主要会議とその主な議題(平成22年11月～平成23年1月)

【理事会】

〔平成22年11月9日〕

—審議事項—

1. 平成22年度補正予算について
2. 学校法人大阪医科大学病院経営改善委員会規程の制定について
3. 学校法人大阪医科大学歴史資料館規程の一部改正について
4. 募金について
5. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. 病院オーダリングの更改について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告

〔平成22年12月14日〕

—審議事項—

1. 常務理事の選任について
2. 大阪医科大学附属看護専門学校校長の選任について
3. 学校法人大阪医科大学賞罰規程の一部改正について
4. 栗本洋子基金の解消・同規程の廃止、同基金残額の返還、予備費の使用及び校費の取消しについて
5. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会、日本私立医科大学協会理事会報告
3. 病院オーダリングシステムの更改について
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. 看護専門学校報告

主要会議報告

〔平成23年1月18日〕

—審議事項—

1. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 病院経営改善委員会報告
3. 日本私立医科大学協会、日本私立医科大学協会理事会報告
4. 学事関係報告
5. 病院関係報告
6. その他

【臨時評議員会】

〔平成22年11月9日〕

—審議事項—

1. 議長の選出について
2. 平成22年度補正予算について
3. 募金について
4. 学校法人大阪薬科大学との連携について

—報告事項—

1. 学校法人大阪医科大学の経営改善方針と給与への反映について

【大学協議会】

〔平成22年11月22日〕

—協議事項—

1. 大阪医科大学新研究科設置検討委員会委員の委嘱について
2. 医看融合教育の進捗状況について
3. その他

〔平成22年12月27日〕

—協議事項—

1. 看護学部長報告
 - 1) 教授予定者1名の就任辞退、助教1名の退職について
 - 2) 自己点検について
 - 3) その他
2. 大学の情報公開について
3. 大阪医科大学新研究科設置検討委員会報告
4. その他

〔平成23年1月24日〕

—協議事項—

1. 大阪医科大学医学部共有実験施設利用に関する件
2. 医学部・看護学部間の教員の兼担について
3. 大阪医科大学学則の一部改正について
4. 大阪医科大学新研究科設置検討委員会報告

【教授会】

〔平成22年11月10日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室教授選考委員会委員の選出について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室教授選考について
3. 第6学年卒業の可否判定基準について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. 大阪医科大学英文雑誌発行規程(案)について
6. 大阪医科大学医学部のポリシー等について
7. 平成22年度(第6回)鈎奨学基金研究助成金審査委員の選出について
8. 平成23年度学事予定表(案)について
9. 平成23年度医学部入学試験に関する件

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 図書館長報告
4. 教育機構長報告

〔平成22年11月24日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室教授について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室教授選考について
3. 第6学年卒業の可否判定について
4. 大阪医科大学英文雑誌発行規程(案)について
5. 学校法人大阪医科大学教育職員採用規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 教育機構長報告
5. 倫理委員長報告

[平成22年12月8日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室担当教授について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室担当教授選考について
 - 3) 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授選考について
3. 教育研究上の情報等の公表について
4. 名誉教授資格について
5. 大阪医科大学入学時特待生規程の一部改正について
6. 平成22年度学生褒章(学長賞・教育機構長賞)の選定について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 中山国際医学医療交流センター長報告
3. 教育機構長報告
4. 広報・入試プロジェクト委員長報告
5. その他

[平成22年12月22日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室担当教授の選考について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室担当教授の選考について
 - 3) 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
3. 功勞教授資格について
4. 総合教育に関する学長諮問委員会からの答申書について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

[平成23年1月5日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室担当教授の選考について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室担当教授の選考について
 - 3) 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
3. 功勞教授資格について
4. 学校法人大阪医科大学ホームページ運営規程の一部改正について
5. 解剖学教室教員の増員に対する上申書について
6. 大阪薬科大学からの教授候補者の推薦について
7. 第2学年生の休学願い出について
8. 平成23年度授業科目及び単位の変更について
9. その他

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 教育センター長報告
5. その他

[平成23年1月19日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 今後の教授選考について
 - 1) 泌尿生殖・発達医学講座泌尿器科学教室担当教授の選考について
 - 2) 外科学講座一般・消化器外科学教室担当教授の選考について
 - 3) 感覚器機能形態医学講座口腔外科学教室担当教授の選考について
3. 大学院医学研究科に係る改革について
 - 1) 大阪医科大学大学院学則(一部改正)(案)
 - 2) 大阪医科大学研究機構規程(一部改正)(案)
 - 3) 大阪医科大学研究機構運営委員会規則(一部改正)(案)

主要会議報告

4)大阪医科大学大学院医学研究科教授会規程(案)

5)大阪医科大学大学院医学研究科大学院委員会規程(案)

4. 総合教育に関する学長諮問委員会からの答申書について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告

【大学院医学研究科委員会】

[平22年11月10日]

—報告事項—

1. 第8回三島圏域がん・緩和医療セミナーについて
2. 日台若手研究者交流事業(科学技術)の募集について
3. 大学院教員の従事内容アンケート調査へのご協力のお願について

[平成22年11月24日]

—審議事項—

1. 平成22年度学位論文提出のための語学試験について
2. 平成23年度大学院入学試験(10月実施分)について

—報告事項—

1. がんプロフェッショナル養成プランの中間評価について
2. 平成23年度学事日程及び入学宣誓式について
3. 大学院特別講義について
4. 各種募集について

[平成22年12月8日]

—審議事項—

1. 医学研究科ポリシー(案)について
2. 大学院医学研究科に係る改革等について
 - 1)大学院医学研究科に係る改革等について(Ver.2)
 - 2)大阪医科大学大学院学則(一部改正)(案)
 - 3)大阪医科大学研究機構規程(一部改正)(案)
 - 4)大阪医科大学研究機構運営委員会規則(一部改正)(案)

5)大阪医科大学大学院医学研究科教授会規程(案)

6)大阪医科大学大学院医学研究科大学院委員会規程(案)

[平成22年12月22日]

—審議事項—

1. 平成22年度第2回学位論文申請受理可否について
2. 大学院医学研究科に係る改革について
 - 1)大阪医科大学大学院学則(一部改正)(案)
 - 2)大阪医科大学研究機構規程(一部改正)(案)
 - 3)大阪医科大学研究機構運営委員会規則(一部改正)(案)
 - 4)大阪医科大学大学院医学研究科教授会規程(案)
 - 5)大阪医科大学大学院医学研究科大学院委員会規程(案)

—報告事項—

1. 平成23年度大学院入学試験(2月実施分)願書受付について
2. 第2回臨床研究教育研修会について
3. 大学院特別講義について

[平成23年1月19日]

—報告事項—

1. 平成23年度大学院入学試験(2月実施分)願書受付状況について
2. 平成23年度研究生継続・新規手続について
3. 平成23年度大学院教育要項(シラバス)の作成について
4. 平成22年度成績評価に係る件
5. 第4回医療フォーラムについて

【看護学部教授会】

[平成22年11月10日]

—審議事項—

1. 看護学部研究雑誌デザインについて
2. 経常の機器備品費(予算額500万円)の執行について
3. 平成23年度 入学式及びオリエンテーション日程について
4. 平成23年度 看護学部入試の総監督及び総監督補佐について

5. 平成23年度以降の学生教育研究災害傷害保険の接触感染予防保険金支払特約の全員加入について
6. 保健師教育の選択制について
7. 授業科目の名称について(日本国憲法と体育)
8. 看護学部内の研究の窓口とそのルートの決定について
9. 平成23年度学部共同研究費執行(ゲートウェイシステムを使用しても旅費の執行が自由に行えること)について

10. 平成24年度図書経費について

—報告事項—

1. 大学協議会報告
2. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) FD部会報告
 - 5) 実習部会報告
 - 6) 看護備品管理報告
3. 看護学部棟改修工事計画(案)の現状について
4. センター試験監督者の決定について
5. 医看融合教育について
6. 学部長報告

[平成22年11月19日]

—審議事項—

1. 平成23年度看護学部入学試験に関する件

[平成22年12月8日]

—審議事項—

1. 看護学部棟改修工事(案)について
2. 平成23年度学事日程表(案)について
3. 履修の手引きについて
4. 授業内容の調整について
5. OSCEについて
6. 出席登録の不正について
7. 総合実習と卒業演習について
8. 看護学部新入生保護者説明会について

—報告事項—

1. 大学協議会報告
2. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告

- 3) 看護実践研究センター報告

- 4) FD部会報告

- 5) 実習部会報告

- 6) 看護備品管理報告

- 7) HP委員会報告

3. 平成23年度の予算(案)の提出について

4. 新入生宛の通知文章について

5. 学部長報告

- 1) 保健師教育の選択制について

- 2) 看護学部保護者会(PA会)について

[平成23年1月12日]

—審議事項—

1. 看護学教育のあり方検討委員会設置について
2. 各種委員会の確認と見直しについて
3. フィジカルエグザミネーションの担当教員について

4. 大阪医科大学ホームページ運営規程について

5. 学則の一部変更について

6. 地域看護学実習施設の追加について

7. 看護学部設置経費の執行について

—報告事項—

1. 大学協議会報告

2. 各種委員会報告

- 1) 学生生活支援センター報告

- 2) 教育センター報告

- 3) 看護実践研究センター報告

- 4) FD部会報告

- 5) 実習部会報告

- 6) 看護備品管理報告

- 7) HP実務委員会報告

3. 看護学部看護学科の定員について

4. 医学部教員の兼担について

5. その他



行事日程

■主な行事日程(平成23年3月～5月)

3月2日(水)	診療科長会 医学部センター試験利用入学試験 2次試験	21日(月)	看護専門学校春期休暇(~4月7日)
3日(木)	医学部教授会 医学部センター試験利用入学試験 2次試験合格発表	23日(水)	病院運営会議
4日(金)	医学部卒業式 看護学部教授会(臨時) 看護学部一般入学試験(後期)合格発表	25日(金)	学位記授与式 第100回看護師国家試験合格発表
5日(土)	第4回 歴史資料館市民講座	28日(月)	大学協議会
8日(火)	理事会	30日(水)	理事会・評議員会
9日(水)	看護学部教授会 看護専門学校卒業式	4月2日(土)	医学部教授会・看護学部教授会
10日(木)	医学部一般入学試験(後期)1次試験	4日(月)	大学院医学研究科入学宣誓式
16日(水)	医学部教授会(臨時) 医学部一般入学試験(後期)1次試験合格発表	5日(火)	医学部・看護学部 入学宣誓式
18日(金)	医学部一般入学試験(後期)2次試験 第105回医師国家試験合格発表 看護専門学校終業式	6日(水)	診療科長会・医学部教授会(臨時)
19日(土)	医学部教授会 医学部一般入学試験(後期)2次試験合格発表	8日(金)	看護専門学校始業式
		12日(火)	理事会
		13日(水)	看護学部教授会
		16日(土)	平成23年度第1回市民公開講座
		20日(水)	医学部教授会
		23日(土)	看護専門学校学校祭(白友祭)
		27日(水)	病院運営会議
		5月6日(金)	ナイチンゲール生誕祭
		10日(火)	理事会
		11日(水)	医学部教授会・看護学部教授会・診療科長会
		21日(土)	平成23年度第2回市民公開講座
		25日(水)	医学部教授会・病院運営会議
		28日(土)	理事会・評議員会

お詫びと訂正

学報第86号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P5 受賞等について 7行目 更新 → 後進

P26 学内行事 第62回 西日本医科学生総合体育大会

根来 考義 → 孝義

徐 准耕 → 淮耕

小澤 考弥 → 孝弥

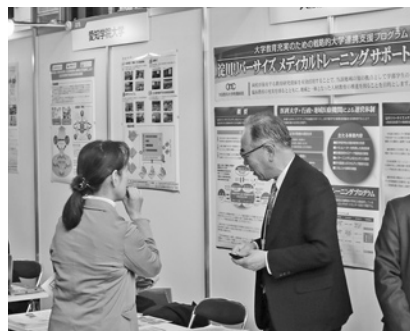
松浦 広昂 → 広昂

P37 人事関係

採用 H22.10 レジデント 大洞 佳代子 → 削除

■文部科学省主催の22年度『大学教育改革プログラム合同フォーラム』に参加

文部科学省は大学等が実施する教育改革の中から優れた取組GP (Good Practice) を選定、支援しており、これらの大学教育の現状や取組みを広く社会へ情報発信するために、毎年1月に大学教育改革プログラム合同フォーラムを開催しています。本年度は平成23年1月24日(月)・25日(火)の両日、東京・秋葉原コンベンションホールで基調講演、各分野での分科会(事例発表・パネルディスカッション)やポスター展示が行なわれ、本学からは『淀川リバーサイドメディカルトレーニングサポートプログラム』がポスター展示に採択され、来場されたたくさんの大学関係者から内容についての質問がありました(下図)。特に、医学系人材育成の分科会では200事業の取組から医学部関係の採択はわずか2校だけでしたが、『近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム』を「医療系人材育成」分科会の事例発表として、近藤センター長が4大学を代表して中間実績として報告されました。会を通して質疑応答が活発に行なわれ、関心の深さを痛感すると共に、教育の奥深さを感じました。今後の取組でも、他大学の事例発表やポスターセッションでの情報を参考にして活動に生かしたいと考えています。(キャリア形成支援センター)



■医療に係る安全管理のための職員研修 第27回研修会

- 【演題】** 『輸血のリスクマネジメント』
【演者】 輸血室 室長 河野武弘 先生
【開催日】 平成22年12月2日(木) 午後5時～6時
【出席者】 261名(※その他DVD上映会出席者およびDVD借用者：192名)

12月2日(木)午後5時より、臨床第一講堂、臨床第二講堂において、木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に第27回研修会が開催されました。

輸血室 室長の河野武弘先生により、『輸血のリスクマネジメント』と題し、事例を通し説明していただきました。

研修終了後のアンケートでは「輸血に関し、基礎的なことから事故事例を用いて説明があり、輸血のリスクについて理解でき勉強になった」また「分かりやすいスライドでとてもわかりやすかったので、より多くの職員に聞いてほしい」等のご意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、村尾医療安全対策室長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のうちに終了しました。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』(事例検討会・特別講演会等)の出席は、医療に係る全ての職員(常勤・非常勤・アルバイト・派遣・委託職員等も含む)が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

研修会へご出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDが視聴で出来ますのでご利用下さい (お問い合わせ：医療安全対策室 2号館5階 内線2990)。

医療安全対策室

■医療に係る安全管理のための職員研修 第26回特別講演会

- 【演題】 『臨床倫理の考え方と検討の実際』
 【演者】 東京大学大学院人文社会系研究科 次世代人文開発センター 上廣死生学講座
 特任教授 清水哲郎 先生
 【開催日】 平成23年1月21日（金）午後5時～6時30分
 【出席者】 305名

1月21日（金）午後5時より、臨床第一講堂、臨床第二講堂において、樋口病院医療相談部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に、第26回特別講演会が開催されました。

清水先生により、『臨床倫理の考え方と検討の実際』と題し、臨床倫理について、非常に難しい内容を簡単にかみ砕いて説明していただきました。

アンケートでも「興味深い話であり、もっと具体的な実際の部分が聞きたかった」等もご意見も多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として佐浦診療情報管理室長より謝辞を述べられ、講演が盛会のうちに終了しました。



■医療に係る安全管理のための職員研修 今後の開催予定

【第27回特別講演会】

- ◇日時 平成23年3月10日（木）午後5時～6時30分
 ◇会場 臨床第一講堂・臨床第二講堂
 ◇演題 『内服薬処方せんの記載方法に関する安全対策』
 ◇演者 厚生労働省 関東信越厚生局 医療安全対策専門官 望月 聡一郎 先生

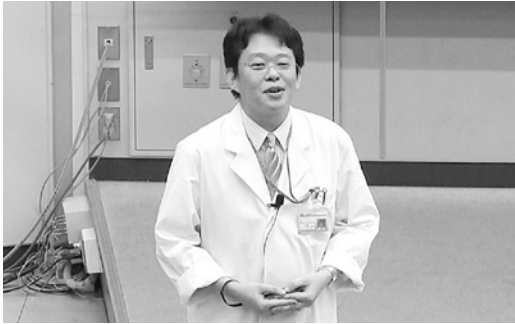
【DVD上映会】

日時／時間	9時～	10時半～	12時～	15時～	17時～
3月14日(月)	第26回特	第25回特	—	第25回事	第27回研
3月15日(火)	第24回特	第26回事	第26回特	第27回特	第25回特
3月16日(水)	—	—	—	第26回事	第27回特
3月17日(木)	第25回特	第27回特	第27回研	第24回特	第26回特
開催場所	医療安全対策室横研修室 ※要予約			臨床第Ⅱ講堂	

<上記研修会の詳細>

第27回特別講演会	◆「内服薬処方せんの記載方法に関する安全対策」厚生労働省 望月聡一郎
第26回特別講演会	◆「臨床倫理の考え方と検討の実際」東京大学大学院 特任教授 清水哲郎
第27回研修会	◆「輸血のリスクマネジメント」輸血室 室長 河野武弘
第26回事例検討会	①「医療安全管理に関する事例検討」 ②「医用テレメーターの危険性」
第25回事例検討会	◆「ICUの有効利用と医療安全」ICU室 室長 梅垣修
第25回特別講演会	◆「医療安全としての静脈血栓塞栓症の予防」三重大学医学部 太田覚史
第24回事例検討会	①「救急カート運用について」 ②「緊急気道管理マニュアルについて」

■第12回感染対策研修会開催報告



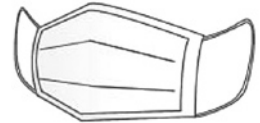
中野 隆史 先生

演題：『標準予防策シーズン2

「秋冬用の標準予防策!?!』

演者：中野 隆史 先生

(微生物学教室 准教授／感染対策室 室員)

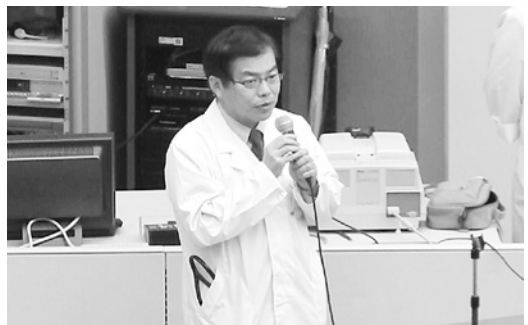


去る11月15日（月）、臨床第一講堂において感染対策室としては12回目となる『感染対策研修会』を開催いたしました。講師は微生物学准教授・感染対策室 室員の中野隆史先生で『標準予防策シーズン2「秋冬用の標準予防策!?!』という内容で行われました。

前回「シーズン1」で標準予防策は「いつでも、どこでも、誰でも」必要なスキルであることが強調されました。にもかかわらず今回、「秋冬用の標準予防策」というタイトルがついていることについて、最初に中野先生から説明がありました。曰く、秋冬に流行が予想されるインフルエンザとノロウイルス感染症の両疾患については、診断がつく前の段階での感染対策が非常に重要であり、標準予防策プラス α （アルファ）で対応すべきではないか、という問題提起をしたいということです。

インフルエンザに関しては「呼吸器エチケット（咳エチケット）」の徹底、とくにマスクの適正な使用が強調されました。ノロウイルス感染症に関しては、食中毒と感染性胃腸炎の2つの感染経路があること、症状なく糞便にウイルスを排泄する「不顕性感染者」が存在すること、吐物からの塵埃感染（空気感染）が存在すること、消毒薬としてのアルコールの効果が不明であることなどが紹介されました。そして食中毒の場合は二枚貝より不顕性感染者が調理した食品が原因になる頻度が高いこと、感染性胃腸炎の場合は吐物の適切な処理が重要なこと等、動画を交えたスライドと中野先生の名調子 (!?) で分かりやすく説明されました。

今回聞き逃したみなさん！標準予防策はすべてのスタッフに必要なスキルであることは間違いありません。シーズン1・2の「標準予防策シリーズ」DVDを是非ご覧いただき、標準予防策の再認識をしていただきたいと思います。



感染対策室長 浮村 聡 先生

～感染対策室からのお知らせ～

感染に係る職員研修を年2回受講することは、医療法により定められています。2回の受講に満たない方に対しては、年度末までにご案内を致しますので、今後開催予定のDVD上映会には是非ご出席下さい。また、DVDの貸出しにつきましては、引き続き感染対策室で行っておりますのでご利用下さい。

感染対策室（内線2780）

大学安全対策室

■大学安全対策室からのお知らせ

大学安全対策室は大学安全対策委員会および3つの小委員会（薬品管理、感染対策、個人情報）を支援しています。

薬品管理小委員会では、化学物質等の適正管理を目的にした「化学物質等管理規程」を作成し、平成22年6月1日に施行されました。研究者や学生等の身の安全を確保するため、まずは各教室内に化学物質等管理責任者および保管責任者を選出し、管理体制の明確化を図りました。

つぎに、毒物劇物を中心とした「化学物質等管理取扱手引き」を作成し、平成22年6月に保管責任者を対象に化学物質等の管理に関する説明会を開催いたしました。

平成22年4月および10月には、大学院1年生を対象とした統合講義にて、主に薬品管理に関する講義を実施しました。さらに、平成23年2月および3月には、教職員向けに化学物質等の安全管理に関する研修会を実施する予定にしています。

薬品管理小委員会とは別に適正な管理を強化するために調査委員会が立ち上がりました。平成23年1月に化学物質等の管理状況を把握するため、全教室への立ち入り調査を実施し、法令に準じた化学物質等の適正管理を促しました。調査の際には、各教室には多大なるご協力をいただきました。

つぎに、感染対策小委員会では、学校伝染病における登校禁止・出勤停止等の基準の作成、医学部学生の感染症教育カリキュラム作成等大学における感染対応のための体制作りをおこなっています。

また、大学安全対策委員会は平成22年10月には、本学構成員が本学の危険・安全に関してどのように考えているかを把握することを目的に、「学内における危険・安全に関するアンケート」を実施しましたので、その結果をお示しいたします。（図参照）

この結果より、教職員等が感じている危険は多岐にわたっていることが伺われます。それらの問題に対して関連部署等へ改善を促します。さらに、大学安全対策室は、「計画」「実行」「検討」「改善」というPDCAサイクルをもとに本学構成員の安全対策を提言して参ります。

【連絡先】

大学安全対策室（研究棟1階） 内線3404, 3405

E-mail: sps000@art.osaka-med.ac.jp

URL: www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

大学安全対策委員会
学内における危険・安全に関するアンケートの実施・報告
教職員向け薬品管理に関する研修会実施
薬品管理小委員会
「研究用麻薬の保有状況」調査・報告
要廃棄試薬類の調査・報告
要廃棄試薬類の費用概算報告
薬品管理システム導入検討
化学物質等管理取扱手引き作成
危険物取扱手引き作成
麻薬及び向精神薬管理取扱手引き作成
大学院統合講義の実施
感染対策小委員会
平成23年度医学部感染症教育カリキュラム作成
集団感染発生時における注意喚起等の連絡網整備
学校伝染病における登校禁止・出勤停止等の基準
学生へ水痘ワクチン接種の証明の提出の義務化
入学時の各ワクチン接種の必要性
新型インフルエンザ行動計画（案）
調査委員会
化学物質等の管理状況の把握

学内における危険・安全に関するアンケート結果

【アンケート実施概要】

実施日 平成22年10月14日（木）～11月5日（金）

配信 メール送信数 755名

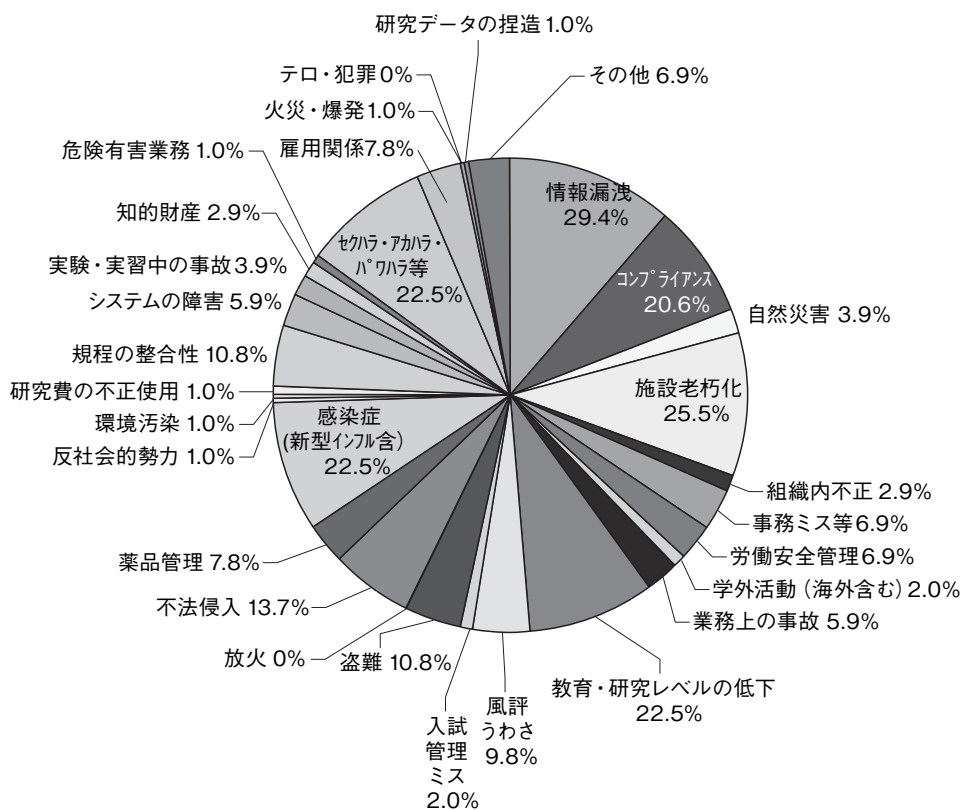
64部署に印刷物で配布

対象者 教員・大学院生・技術員・事務職員・契約職員・派遣職員・研究補助員および秘書等・その他

返却数 102枚

質問

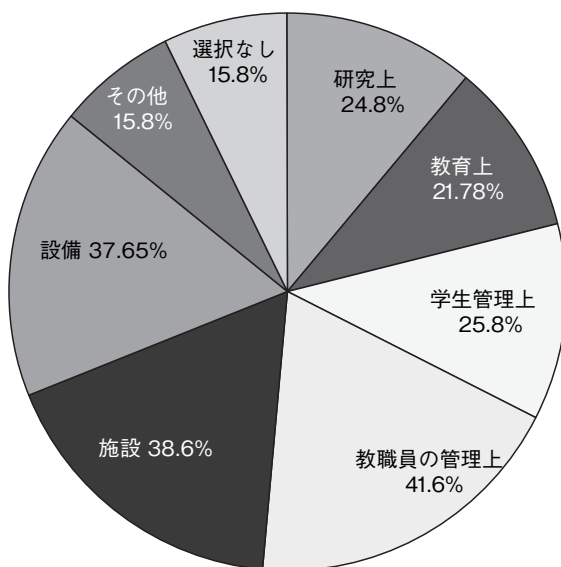
これまで学内で経験した「危ない」あるいは「改善が必要である」と感じたことに関係しそうなキーワードを3つ選んでチェックしてください。（重複回答につき割合は200%を超えています）



大学安全対策室

質問

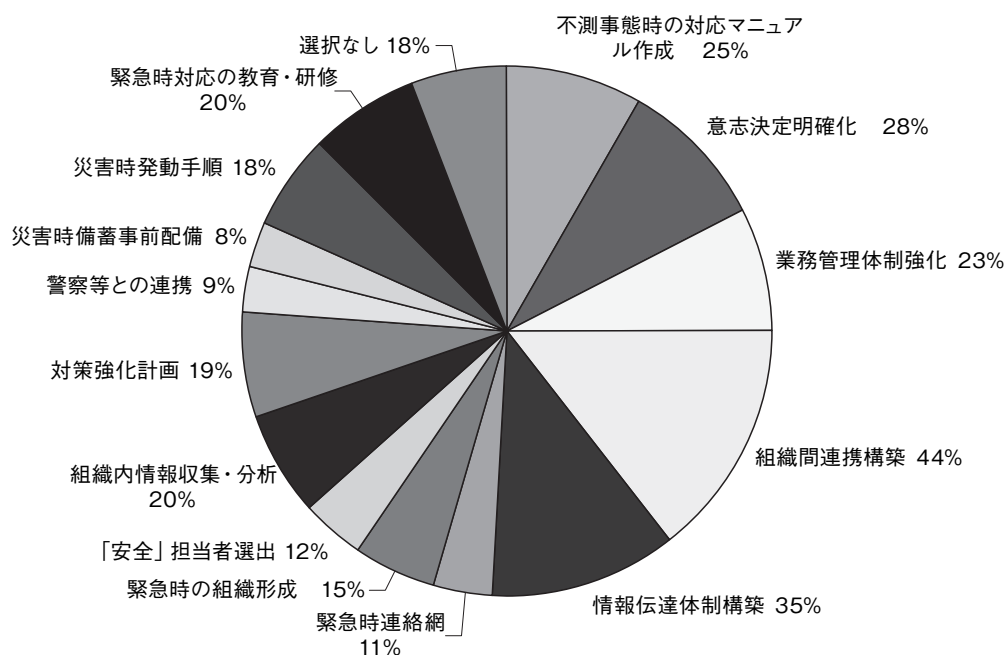
これまでに学内で「改善が必要である」と感じたことに関係しそうな体制に関わるキーワードを3つ選んでチェックしてください。(重複回答につき割合は200%を超えています)



質問

回答していただいたような事態の発生を防ぐ、もしくは、発生してしまった場合の被害を最小限にとどめるためには、どのような対策が必要と考えられますか？

以下の中から選んで入れてください。(選択数は自由につき割合は300%を超えています)



保健管理室からのお知らせ

■ ノロウイルスによる感染性胃腸炎の流行について

今冬はノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が流行しており、集団発生の報告も多くありました。

ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎は感染力が強く、10～100個の少ないウイルス量でも感染します。また不顕性感染（感染しても発病しない）でウイルスを排出する場合があります、知らない間に感染が広がっていることがあります。感染性胃腸炎は1年を通して発生しますが、特に冬から春に多発しています。また学校、医療機関などは二次感染による集団発生の危険性が高いので、感染防止のために、以下の点に注意して下さい。

- ① 流水・石けんによる手洗い（帰宅時、食事前、調理前、配膳前、トイレ後）
- ② 加熱が必要な食品、二枚貝類（かき、はまぐり、あさりなど）は十分に加熱して下さい。
- ③ 感染した場合、症状消失後2週間程は糞便中にウイルスが排出されますので、注意して下さい。
- ④ 嘔吐物・糞便等の処理は、使い捨てのマスク・手袋を着用し、嘔吐物や糞便が乾燥しない内に、250倍に薄めた塩素系漂白剤で拭き取って下さい。

■ インフルエンザワクチン接種について

平成22年度のインフルエンザワクチン接種を実施しました。今年度は昨年新型インフルエンザ流行のため、季節性インフルエンザ（A/H3N2、B）と新型インフルエンザ（A/H1N1）の3価ワクチンとなりました。本学での接種状況は表1、2のようになっていますが、特に医学部学生1、2年生の接種者数が低く、学生（特に低学年）への啓発活動の重要性を感じました。また非正規職員の接種についてご意見を多く頂いており、今後の課題として検討したいと考えています。

表1.インフルエンザワクチン接種状況（職員）

職種	対象者数	接種者数
教員	422	365 (86.5%)
事務職	206	189 (91.7%)
看護職	855	820 (95.9%)
技術職	278	255 (91.7%)
技能職	38	38 (100.0%)
労務職	15	13 (86.7%)
レジデント・研修医	185	165 (89.2%)
その他	103	99 (96.1%)
総計	2102	1944 (92.5%)

表2.インフルエンザワクチン接種状況（学生）

所属	対象者数	接種者数
医学部1年生	115	20 (17.4%)
医学部2年生	119	33 (27.7%)
医学部3年生	96	32 (33.3%)
医学部4年生	105	43 (41.0%)
医学部5年生	100	58 (58.0%)
医学部6年生	105	81 (77.1%)
看護学部1年生	88	85 (96.6%)
看護専門学校	139	136 (97.8%)
大学院生	91	53 (58.2%)
総計	958	541 (56.5%)

■ 職員定期健康診断の未受検者について

平成22年10月18日（月）～10月29日（金）に、職員定期健康診断などを実施しましたが、未だ受検されていない方（あるいは結果未提出）がいます。健康診断は労働安全衛生法で受検が義務付けられており、結核の定期検診も兼ねていますので、ご協力をお願い致します。

また受検された方は「自分の健康、生活習慣を考える」良い機会です。所見の有無に関係なく今回の健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

保健管理室からのお知らせ

■ 平成23年度予定

平成23年度の各種健康診断・感染症事業予定は下記のとおりとなります。詳細は対象者の方々に随時ご案内しますので、必ず受検して下さい。

また健康診断、感染症事業の実施においては、中央検査部、中央放射線部、病院感染対策室、薬剤部など関係部署の多くの方々のご協力で実施しています。厚く御礼申し上げます。

健康診断名	対象者	実施時期	関連法規
学生定期健康診断	医学部・看護学部学生、 大学院生、 看護専門学校学生	4月～5月	学校保健安全法第2章第13条
職員定期健康診断	教職員、レジデント、 研修医、非常勤職員	10月	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第44条、学校保健安全法第2章第15条
特定健康診断・特定保健指導	40歳以上の教職員	10月	高齢者の医療の確保に関する法律第20、24条
特定業務従事者健康診断	深夜業務に従事している者	5月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第45条
雇入時健康診断	雇入者	随時	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第43条
電離放射線健康診断	電離放射線業務に従事している者	4月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、電離放射線障害防止規則第56条
有機溶剤・特定化学物質健康診断	有機溶剤、特定化学物質取扱者	5月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、有機溶剤中毒予防規則第9条、特定化学物質等障害予防規則第39条
長時間労働者健康診断及び面接指導	月45時間以上の時間外・休日勤務者	5月、10月	労働安全衛生法第66条
血液浄化センター・臨床工学室定期検診	血液浄化センター、 臨床工学室職員	4月、9月	
QFT検査	雇入者、医学部・看護学部1年生、 大学院1年生	4月、 雇入時	
感染症抗体検査	雇入者、大学院1年生 医学部4年生、 看護学部2年生	4月、1月 雇入時	
B、C型肝炎抗原抗体検査 B型肝炎ワクチン接種	教職員、学生	4月、6月、 7月、12月	
インフルエンザワクチン接種	教職員、学生	11月	



■歴史資料館からのお知らせ

【 歴史資料館展示資料恵与者 】

平成22年10月1日から平成22年12月31日までに3名の方（別表）よりご恵与賜りました。

本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

(敬称略)

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H22.10.7	石浦 恒夫	講義ノート（皮膚科学、泌尿器科学）	高医 昭和24年卒
H22.12.5	松井 昭彦	大阪医科大学50周年祭プログラム、 ポスター（宮城まりこ－講演と映画）、 その他35点	医学部 昭和54年卒
H22.12.18	塚原 彰弘	ノート（表紙：旧本館、作製：杏林薬 品株式会社大阪支店）	学生（第5学年）



◆大阪医科大学俳句会（十一・十二・一月）

遊学の子の家苞や越前蟹

返信を要する通知五日かな

配神は明智光秀初夷

銀や芒呆けても呆けても

初風呂の湯気ゆるやかに生きよとや

冬蟹や海女売りつくす背負籠

ぶちあけて売らねば暮れるせいこ蟹

後悔の左も右も栗の毬

満山の紅葉や白き握飯

一杯のアイスワインや十三夜

芸人も声を嗶らしぬ年の市

神送る峯また峯を飛ぶ木の葉

金風や結ぶの神にねがひ事

枯ふかし名札のみなる葉草園

山崎隆司

同

中川一成

吉田孝江

同

飯塚久子

同

美濃 眞

同

宮脇芳美

同

寺田千代子

羽根美恵子

谷口文子



● LDセンター10周年記念講演会とイルミネーション点灯式 ●

2001年4月1日開設したLDセンターは、今年で10年目を迎えました。それを記念して、11月21日(日)に看護学部講堂で10周年記念講演会を行いました。ロビーには、この10年間のあゆみを写真でつづったパネルが展示され、10年の成果をまとめた冊子と、10周年を記念してオプトメトリストを中心に医師と指導スタッフ全員で執筆した本が、受付に並びました。

当日は、10周年を祝うかのような快晴に恵まれ、250名近い方々にお越しいただきました。玉井浩センター長の挨拶に続いて、竹中洋学長にもご挨拶いただきました。午前中は、発達障害や学習障害への日本での取り組みやLDセンターでの研究内容についての講演を、午後は、具体的な事例に基づく指導内容の紹介を行いました。

午前10時から午後4時という長時間にもかかわらず、最後まで熱心に聴講していただき、スタッフ一同、気持ちを新たにして研究や指導に取り組んでいこうと思いました。



リニューアルされた看板

記念講演会から2週間後の12月3日(金)、午後4時30分からは、恒例のイルミネーション点灯式を行いました。前日からあいにくの雨模様で、『午後からは雨が上がる』という天気予報を信じながらの準備となりました。雨は上がったものの風が強く気温も低めでしたが、100名近い参加者の熱気で、盛り上がりました。

今年の「小児ボランティア部」の学生さんたちの出し物は、『影絵クイズ』。学生さんたち手造りの影絵パネルを見て「何に見えるかを当てる」というものでしたが、「自分が問題を出したい!」という子どもたちが続出。予想外の事態で問題用の影絵パネルが足りないというハプニングもありましたが、同じパネルを何度も使いながら子どもたちは問題を出せたことに大満足でした。



『皿回し体験会』と、センターホールでのヴァイオリン・フルート・ピアノによる『気まぐれコンサート』は、昨年に引き続き今年も大好評でした。小さな子どもたちがピアノの前に座って、演奏される曲に合わせて手拍子する姿は、とても微笑ましいものでした。恒例のビンゴ大会では、なかなかビンゴが出ないために泣き出す子どももいましたが、全員無事にプレゼントをもらえて、満足そうに帰って行きました。



「ひるどき」山田嘉一郎 (F50号)

この作品は、エーゲ海に浮かぶミコノス島内の田園の風景が叙情的に描かれています。

ミコノス島はギリシャ神話の神ゼウスとギガースの戦いの地として知られています。ギリシャ神話ではヘーラクレースを味方につけたゼウスがギガースを破ったと記されています。島の名はアポロンの孫「ミコノス」からつけられました。

ミコノス島は世界でも有数のリゾート地で、年間を通してたくさんの観光客やリゾート客が訪れています。

山田嘉一郎先生は、ギリシャ建築が立ち並ぶメインの海辺の風景ではなく、本来の島民の生活がある田園風景を画題に選ばれました。昼時（ひるどき）の農民の穏やかな生活が明るい色調で描かれています。その筆使いはあくまでもやさしく、地中海の温暖な気候ではぐくまれた大地の美りと農民のゆったりとした生活を暖かいタッチで見守るように表現して、私たちの心を和ませてくれます。

この絵は看護学部研究棟1階の学部長室に飾られています。

なお、山田嘉一郎先生の絵は本部キャンパス及び北キャンパスの

本館・図書館	4階	第1会議室西側	「高原」	(F130号作品)
同	4階	第1会議室内	「高原の春」	(F100号作品)
同	2階	図書館長室内	「大岩扇山」	(F50号作品)
新講義実習棟	4階	特別応接室	「秋彩」	(F50号作品)
看護学部研究棟	1階	学部長室	「ひるどき」	(F50号作品)

各建物内に、上記5点の作品が展示されています。是非一度、ご覧ください。

表紙絵：佐助

冬から早春ころに枝の先に一個の花をつける。観賞用に栽培されたものである。佐助は他のツバキ科の花のように花は開ききらずに半開きなのが特徴である。この花の姿が茶席にふさわしいと昔から茶花としてこのまれている。白い花のほうが好まれる。茶人千利休と同時代の茶人の名前からきている。ツバキ科の日本を代表する花である。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第87号

発行年月 平成23年2月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>